

金沢医科大学 氷見市民病院



雪中に咲くブーゲンビリア(氷見市海浜植物園)

目次

金沢医科大学氷見市民病院のスタートに向けて

開設準備室代表 金沢医科大学副理事長 竹越 襄

病院公設民営化への経過

病院運営について

金沢医科大学氷見市民病院のスタートに向けて



開設準備室代表
金沢医科大学副理事長 竹越 襄

金沢医科大学氷見市民病院開設準備室では平成20年4月1日(火)のスタートに向けて、医療スタッフの募集や業務の引継ぎなどにあたっております。

今般、皆様方に私どもの思いを再度お伝えしたいと思いますので、ご一読いただき氷見市民のための地域医療を守るべくご理解の上、ご協力をお願い致します。

病院公設民営化への経過

「公設公営」から指定管理者制度による「公設民営」へ

厚生労働省の厳しい医療費抑制政策によって、医療施設の経営が全国的に困窮し、特に旧態依然とした経営の体質から抜けきらずに運営されている地方自治体病院の経営破綻の状況が報道されていることは、すでにご存知のとおりです。

氷見市民病院もその例外ではなく、年間数億円の支出超過をかかえる「慢性赤字経営」を余儀なくされており、市の財政に対して負担が大きくなるばかりで、いずれは破綻を迎えるという状況になっております。

この状況の下、氷見市は平成19年4月、県をはじめ中央の関係分野の有識者による「氷見市民病院経営改革委員会」を立ち上げて改善策について諮問し、お役所体質の甘い体制を抜本的に改革し、指定管理者制度を導入すべしとの答申を得ました。そして市議会、住民説明会などを経て、民間への経営委託を実施することになりました。

その後、経営委託先の公募、審査を経て学校法人金沢医科大学が経営委託を受けることになり、市議会の議決を経て、平成19年11月22日(木)に調印が行われました。

病院運営について

1) 氷見市民病院の経営委託にあたっての基本理念

「医師不足による医療格差を無くし、地域医療を守っていくことが、医科大学の使命であり、関係大学間の連携・協力の下に、金沢医科大学の責任において、氷見の地域医療を守っていく」ことにあります。

2) 病院運営の新しい方向性

①氷見市民の需要に応じた質の高い、安全な、信頼される医療を提供します。

市と指定管理者である金沢医科大学とが力を合わせて市民の医療ニーズに応えることができる医療提供体制を構築していきます。

②医療体制の選択と集中による再編

必要な病床数への転換、地域医療に必要な不足する診療科の整備などを行います。

③土曜日の診療

市民の利便性を考えて、土曜日も診療します。

④氷見市民の高齢化に配慮した施設整備を行います。

高齢者の医療サービスの充実について、市民本位の方向性を計画して進めます。

⑤新病院の建設

2年後に新病院をスタートさせる予定であり、氷見市民の生活に密着した魅力ある病院づくりを目指します。

⑥医療機器の整備を計画的に行います。

建設費と合わせ機能を重視し、過度な投資とならないよう注意します。

3) 市民病院としての機能と診療体制

①病床規模

250床（急性期・亜急性期・回復期）

②診療科

当面は、現20診療科を継承。泌尿器科、耳鼻咽喉科等の常勤化

③政策的医療

365日24時間救急医療

小児救急は、地元医師会、高岡医療圏との連携で対応

産科医療の充実

へき地巡回診療の継続

④地域連携・地域開放型病院

地域医療・福祉連携の推進の中心となるオープンシステム（地域の開業医を登録医として連携）の導入

⑤災害時対応

⑥集学的医療センター構想

がんセンター

ハートセンター

生活習慣病センター

健康管理センター

4) 教育病院としての位置づけと役割

①医師は、金沢医科大学の教育職員(教授、准教授、講師等)

②教育・研修

③臨床研究(学会活動、臨床研究の推奨)

④高度医療の開発・導入

⑤市民公開講座の開催

5) 医師派遣にあたっての地域医療を支える大学間連携

①医師派遣は、富山大学、金沢大学、金沢医科大学が協議会のもとで協議運営し、金沢医科大学が経営を担当します。

②協議会の構成

- ・氷見市民病院経営責任者、病院長
- ・協力大学の病院長、派遣医局の責任者
- ・氷見市及び富山県の医療行政責任者

③協議する事項

- ・診療科別、専門領域別医師派遣の調整
- ・派遣医師の身分と処遇
- ・医師のキャリア形成支援

④その他

- ・自治医科大学卒業医師のローテーション

6) 地域のニーズに応えるための専門外来開設、診療科横断的な外来診療

循環器、消化器領域においてはセンターを設置し、消化器内科と消化器外科、循環器科と循環器外科のように内科系と外科系診療科が連携し、がん治療の場合も横断的な連携医療を展開する計画です。

7) 医療スタッフの確保と処遇

全ての職員は、地方公務員から民間人となります。処遇、福利厚生、本学病院との人事交流、研修等の魅力と環境を整え、地域住民へのサービスに専念できる職場として整備します。

以上が金沢医科大学氷見市民病院の指定管理者としての今後の病院管理運営の構想ですが、医師、看護師をはじめとする職員を適切に配置することが重要な課題です。

氷見市民病院の全ての職員並びに金沢医科大学の全ての教職員の皆様のご支援を賜りたいと願っております。